

Vol.196

院長 関の

Face to Face

2024年10月1日発行

今から約50年前、山梨県で膝が曲がらず歩行困難になった子どもが集団で見つかり、報道されました。当初は奇病扱いでしたが、当子どもにも頻繁に行われていた抗生剤や解熱剤の注射が原因で起こる大腿四頭筋短縮症であることがわかりました。背景には国民皆保険制度において、医師は丁寧な時間をかけて問診や触診をするよりも、検査や注射、投薬を行った方が高収入と

# 筋肉注射の危険性



いう仕組みになったことが影響していると言われています。この事件を解決に導いたのは心ある医師達でした。彼らは手弁当で活動し、大腿四頭筋短縮症を簡単に見分ける方法をメディアで紹介し、全国で続々と同症状の患者が見つかりました。世論に後押しされ医療界もようやく動き、日本小児科学会が、異例とも言える「注射に関する提言」を発表し、被害が減りました。ここにその提言を要約します。そのⅠ①注射は親の要求によって行うものではない②経

口投与で十分なら注射をすべきでない③風邪症候群において注射は極力避ける④抗生剤と多剤の混合注射は行わない⑤大量皮下注射によっても筋拘縮が発生することが報告されている。そのⅡ①筋肉注射に安全な部位はない②筋肉注射に安全な年齢はない③筋肉注射の適用は通常の場合において極めて少ない④筋肉注射を必要とする場合は保護者または本人の納得を得る  
◇  
コロナワクチンで注目された「筋肉注射」。はたして何回も打って筋拘縮は起こらないのか不安です。

関 修一(せきしゅういち)  
健育会 東銀座整骨院・整体院・  
鍼灸院・マッサージ院 院長  
代替医療の総合治療院としての  
確立を目指す。タイトルの「Face  
to Face」は「患者さん自身と向き  
合って患者さんの症状と闘う」こ  
とを願ってつけた  
※毎月一日の発行です